

第2回「カエル65大学」鎡（かすがい）人養成講座

『議論が踊りだす記録術！？』 議事録

1 日 時 平成22年7月31日（土） 午後2時00分～4時30分

2 場 所 ささえ愛センター（鳥居松ふれあいセンター 第1集会室）

3 参加者

【講師】

NPO 法人岡崎まち育てセンター・りた事務局長 三矢 勝司
NPO 法人まちの縁側育くみ隊スタッフ 名畑 恵

【司会】 春日井市民会議「カエル65」理事 和田 美里

【事務局】 春日井市民会議「カエル65」会長 市原 和久

副会長 今西 寛

副会長 二村みどり

理事 森長 節子

理事 青山 博徳

理事 森 浩子

【その他会員】 3名

【所員】 春日井市市民活動支援センター所長 長谷川孝夫

所長補佐 野田 咲子

市民参画担当主査 小山 雄司

囑託職員 河田 博仁

【一般参加者】 20名

（司会）

開会にあたり、最初に春日井市民会議「カエル65」市原会長より、ごあいさつ申し上げます。



4 主催者あいさつ

こんにちは、鎡（かすがい）人養成講座 第2弾であります『議論が踊りだす記録術！？』を始めるにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

一週間前の日曜日の日本経済新聞にこんな記事がありました。犬山にある霊長類研究所にいるチンパンジーのレオが、4年前に首から下が不随になって倒れていた。それを見つけて、今一生懸命介護しているという記事でした。チンパンジーは首から下は動かないにもかかわらず、人間のように暗い顔をしていないで、ニコニコして笑っているそうです。どうしてかということ、チンパンジーには明日を憂うとか心配するというような、そこまで記憶したりする能力が無いので、心配することなくいつもニコニコしているんだそうです。その姿を見て、霊長類研究所の人们は一生懸命看病して、今では少しずつ動けるようになったということです。

どうして人間は明日を憂うのか、どうして心配するのか、中には自殺する人もいるわけですが、それは言葉を持ったことによって、すごく記憶の力が幅広くなり、心配するようになってしまったそうです。けど逆に、そのおかげで希望を持ったりすることもできるわけで、言葉の力って本当にすごいなと思いました。

今日は、その言葉をさらに文字で記録するという事です。文字が誕生したことによって、何千年も前に記録されたものが発見され解読されれば、「昔の人はこんなことを考えていたんだ。」ということが分かるわけで、記録というのはすごく大切なことだと思います。

今日は、皆さんが話したことを記録する術を、わずかな時間ですが学んでいきます。今まで参加されている方は、講師の方の記録の仕方に感動しながらご覧になられていると思いますが、今回はその力を皆さん方自身に身につけていただくということですので、じっくり勉強して頂きたいと思います。

5 講師紹介

(司会者より、講師の紹介が行われた。)



(司会)

それでは、これからの講座につきましては、三矢さん、名畑さん、よろしくお願いします。

6 座学～「記録術の基本を学ぶ」～(約20分)

こんにちは、三矢勝司といたします。よろしくお願いします。

ところで、ちなみに今日初めて参加した方はいらっしゃいますか。結構多いですね。今回は、「カエル65大学」のシリーズの中では、日頃やっている記録術は、人々が話し合いをする時に、結構有用なスキルになることを実感し、その始めの一步を学んで頂いて、今後の皆さんの活動の活性化に役立て頂きたいと思います。

(今日の全体の流れを資料により紹介する。)

今日の具体的な内容は、4人のスピーカーといわれる人に、5分ずつ話をしてもらいます。主に春日井市内で行われている市民活動の様子とか、春日井にまつわる話を準備してもらっていますので、その後で皆さんに役割分担をしてもらいながら、実際に書いてもらおうと思います。そして、その後やってみてどうだったか、皆さんで意見を分かち合いながら進めていこうと思います。



7 基礎編：ファシリテーショングラフィック講座

それでは早速ですが、私の方から今日学ぼうとしているファシリテーショングラ

フィックの概要についてご紹介したいと思います。正面の映像の方にいろんなものが出てまいります。その内容は手元の資料にも載せてありますので、そちらも御覧ください。



☆ファシリテーショングラフィックとは

○議論の内容を言葉や図形を使ってビジュアル化する「議論を描く」技術

☆ファシリテーショングラフィックの効果

- 話し合いの流れが分かりやすい。
- 話し合いの成果について共有の記憶を持てる。
- 自分の意見が全員に伝わったという確認ができる。
- 話し合いや発想を刺激し、活性化できる。
- 感情的な論争を避けることができる。

☆ファシリテーショングラフィックの進め方

- ポイントを上手につかみ取る。
- 議論が分かりやすくなる図形を見つける。
- 合意点や対立点をつかみ取る。
- 発言ごとに内容や位置づけを確認する。
- 会議後に議事の確認を取る。

☆ファシリテーショングラフィックを用いた会議のレイアウト

- 杖や椅子のレイアウトに気をつける。
- ボードなどが、誰からも見られる位置関係にする。

☆ファシリテーショングラフィックの9カ条

- 1 発言者の意見を的確に、簡潔に書くことが大切
- 2 発言者自身の言葉をなるべく活かす
- 3 記録の際には色使いや強弱を工夫してわかりやすく
- 4 アイコンを出来るだけ入れる
- 5 タイトルを忘れずに

- 6 参加者をリラックスさせる雰囲気を作る
- 7 発言者の意見が分かりにくい時は確認する
- 8 参加者の意見に対し、ファシリテーター個人的評価や勝手な解釈は避ける
- 9 上達のためには、“とにかくやってみる”



ここから先は実践です。まず皆さんのテーブルの上に白い紙面とペンが置いてあります。色は何色でもかまいませんので、好きなものを1本取ってください。

まず、ペンの使い方です。片方が太くてもう一方が細いペンがありますが、ファシリテーショングラフィックをやる時は基本的に太い方しか使いません。

昔、美術の時間に習ったと思いますが、平筆をイメージしてください。強弱をつけるための3つの書き方があります。

一つは真横にすると太く書くことができます。次は少し寝かせてみると中位の太さになり、さらにペンのエッジを立てて書くと細い線が書けます。ファシリテーショングラフィックでは、記録するのに強弱をつけて文字を書いていくところが以外とミソになりますので、まずペンの太さをコントロールすることが最低限のテクニックになります。

次に、実際に文字を書くときには、遠くから見て読みやすいことが大切です。その時の一般的なコツは、いわゆる明朝体風で、縦に太く横に細く書くと、遠くから見ても読みやすくなります。自分の名前を書いてみてください。

☆色の使い方

- 文字に適した色 ⇒ 黒（題字・見出し）、青（普通文章）、紫（補足文書）
- 図式に適した色 ⇒ 赤（矢印・強調）、緑（囲み・挿絵）、茶（囲み・陰影）
- 装飾に適した色 ⇒ 橙（陰影）、黄（バックライト）



みんなのアイデアが出た時に、緑や茶で複数の同様な意見を包み込むことで、

一目瞭然理解することが出来ます。また、意見を関係づける時には、赤の矢印により、この意見は次の意見に向かっているとか、つながっているとか、矢印の反対を使って、意見が対立していることを表すことが出来ます。

最後に印象付けたりする時によく使う技ですが、一つ目は箇条書きに書くこと、二つ目はアンダーバーを引くこと、三つ目はボックスで囲むことです。これらは、後でキーワードであったことを印象付けることが出来ます。

全部覚えて今日やることは相当難しいことなので、今回はまず速記に近いトレーニングをしていこうと思います。多くの経験をつんだのち、今日の資料を振り返って頂いて、記録する際に生かされるようになればいいと思います。

それでは、早速具体的な話題に入りたいと思います。

8 応用編：「春日井まちづくり小話」を記録しよう！

(2人1組に分かれて各班で4組作り、メイン・サブの役割順を決めて実習を開始する。)

【実習1】第1・2組の人

〈スピーカー二村さんの小話〉

春日井市国際交流ネットワークの二村と申します。私が関わっているのは、多文化共生のまちづくりです。多文化共生はすごく奥が深く、関わっている私自身さえ多文化共生とは何かをいつも考えています。平成20年に春日井市の多文化共生プランが作成され、春日井市では、例えば外国人への支援、コミュニケーションのとれない人に日本語教室を開いたり、生活の困っている外国人への相談に乗ったり、市からのお知らせを多言語化して外国人の方に知らせたりしています。市との協働という事で、この鳥居松ふれあいセンターの1階にある国際交流ルームを拠点に活動しています。市内にある13の団体をネットワークで結んでの活動はまだ2年ほどですが、それぞれの団体の中には10年以上活動しているところもあります。それぞれの団体が得意とする分野をネットワークの中で生かしています。例えば、2カ月に1回行っている異文化体験講座（ワクワクふれあいワールド）の企画をして実施をする団体や、外国人相談窓口の相談員をしている団体などもあります。あとは年に1回ほど外国人とのふれあいトークをして、それぞれの団体が緩やかなネットワークで、春日井市の多文化共生を目指そうとしています。

ただ多文化といっても、子どもの文化も大人の文化もあって、本当にいろんな文化的な背景があって、一言で多文化共生といっても難しいことです。今試行錯誤しながらネットワークで活動しています。

私が一番衝撃的だったのは、ペルーから来た老人で、日系ペルー人の方が今にも

死にそうな一人暮らしをしていて、ゴミの中で寝てらして、それを見たときに何とかしなくちゃいけないと思い、それが忘れられなくて少しでも外国人の人に情報を与えたり、コミュニティの中に外国人に目を向けてくれる人が出来るといいなと思って、いろんなところで皆さんに多文化共生の話をしています。



〈三矢さんから〉

- 衝撃的なペルー人の話が、異文化交流のキーワードを浮き立たせ成功している。
- 国際交流と異文化交流の2つのキーワードをつないでいる構図が見えている。
- スピーカーの思いがアンダーバーや「！」によってうまく表現されている。
- 間違った字を訂正することも、記録として残っていていい。
- 黄色のマーカーを使って、共通点やグループ分けして見やすくなっている。
- 「・」をつけて箇条書き風にするすることで、見やすくなっている。
- 名畑さんの模範的なグラフィックを紹介する。



【実習2】第1・2組の人で役割交替

〈スピーカー今西さんの小話〉

私、今西實と申します。今日の私のテーマは、「私の住んでいる高蔵寺」ということです。この高蔵寺という町は、これまでにいろんなまちづくりに取り組んでいる町ですが、非常に古い町です。その古さは次の3つの組合や会に現れています。それは水利組合、墓地組合、奉賛会です。またそれとは別にコミュニティ、老人会、地区社協の3つの団体があります。前者の団体は古くから住んでいる人たちが参加しています。後者の団体はわりと新しく来た人が多く参加しています。もちろん両方に入っている人も中にはいます。

そしてこの6つの代表する団体が区会（自治会・町内会）を構成しています。しかし、前者は財産の管理団体で、水利組合は池を、墓地組合は墓を、奉賛会はお宮を管理していますが、それに対し後者は財産的管理するわけではなく、いわゆる

組織機能集団と言われていて、全く意味合いが違います。

そんな中で今一番の問題は、6つの組織の何れにも所属していない人が大勢いることです。それが一番大きな町内会の問題になっています。



〈三矢さんから〉

- ・3つずつの団体のグルーピングが活かされている。
- ・どこにも属さない人がいることの問題点が明確に示されている。
- ・古い人が所属するグループと新しい人が所属するグループが色分けされている。
- ・問題意識を爆発マークで大きくクローズアップされている。
- ・組織の関係が3つの色で括られていて分かりやすい。
- ・名畑さんの模範的なグラフィックを紹介する。



【実習3】第3・4組の人

〈スピーカー森さんの小話〉

私は共同ネットワークというNPOの団体の事務局をしている森といいます。これまでの活動の過程をお話します。

いつも人に会うたびに「貴方今何しているの？」と聞かれます。会うたびに違う事をやっている、気の多い人と思われがちです。実際は根底には一つしかないと思っています。最初は設計士になりたいと思っていました。人を入れる箱モノの事を考えたい、住む環境を整えることをやっていきたいと思っていました。でも仕事をして行くうちに「それじゃ駄目だ、住む人の事を考えることをやっていきたいんだ」と気付いて、それまでの仕事を辞め、人と人をつなぐ何かをやりたいと思って10年ぐらい前に一人で活動するようになりました。一人で何かをやることは大変なことで、今から考えると何も知らないからできたと思います。人に会うと自分の話を聞いてもらい、どこかへ行っては自分の事をしゃべり、情報発信をしていきたい、人とつながりたいんだと思って、いろんな人と話をしてきました。個の活動をして

いると、自分の考えに共鳴して、一緒にやってくれる方、助言をしてくださる方が徐々に出てきました。働きながら活動することは大変で、自分が自由になったからこそやれたかなと思いました。でも子育てをしながらでしたので、自分の親に子供を託してずっとやって来ました。

ある時ふと気がついて、自分が本当にやりたいのは文化活動なんだって思い、市の文化課や財団、いろんなフロントスタッフの方、文化活動・音楽活動をしていらっしゃる方と一緒にやっっていこうと活動し出しました。その中で知り合ったのが、文化共同ネットワーク・円の代表の方でした。その方にいろいろ教わりながら、一緒に活動してきました。その中でも一人で企画したり、いろんな方の協力を得てやってきたこともあるし、個としての活動もしながら、団体の中に入れていただいて一緒にやったりとか、一つに固まらないのが良かったかなって思いました。いろんな方面の方と交流をしていくことがいいことだと思いました。一つのことに入ってしまうと、その考え方だけに固まってしまう恐れがあったので、逆にわがままを言わせてもらって、いろんなことをやって来ました。

自分から求めないと会えないものです。一人でも団体でも、人（外）と交わっていくことは大事です。けど働いている方が社会参加できないというのが実際です。企業の方も考えていただいて、仕事をしながらでも地域の人たちとつながる活動が出来るような形になればいいなと思います。

今、最終的には、鳥居松カンパニーという商店街の方と地域の方をつなぐ仕事をさせていただいています。人がつながりあう基本ですので、自然にあったものが無いのが少し残念ですが、それが今後出来ていけばいいなと思っています。今後、いろんな活動をしながら、皆さんと一緒に共生出来ないかと思っています。



〈名畑さんから〉

- ・だんだんグレードアップしてきました。いろいろ学ばれたのだと思います。
- ・2人のコンビが機能し、?マークによってこれまでの迷いが表現されている。
- ・大事なキーワードが括りだされています。話されたことの生け捕りが大事です。
- ・タイトルのダイナミックの線がいいですね。話がよく要約されている。
- ・話が構図化されていて、キーワードの配置が上手です。
- ・紙面全体と使って、ここまで至る経緯がラベルを張って分かりやすくしている。
- ・ダイナミックな構図が素晴らしい。迷いの過程がうまく書かれています。

- ・人と人を繋げたいというアイコンが分かりやすくしている。
- ・人と人をつなぐというラベルがあって、その過程の構図化が分かりやすい。
- ・三矢さんのグラフィックを紹介する。



【実習4】第3・4組の人で役割交替

〈スピーカー青山さんの小話〉

青山といいます。私は高蔵寺ニュータウンの数字で見る現状を皆さんにぜひ知って頂きたいと思います。数字を5つばかり用意してきました。皆さんに後から考えてもらおうと思います。ニュータウンが出来て42年目になりますが、少子高齢化の象徴的な町と言われています。人口はピークの平成7年の52,000人から、今47,000人に減っています。人口は減ったけど世帯数は2,000世帯増えています。これはどういうことでしょうか。同じく、小中学生の数は昭和61年に11,000人いたのが、平成21年には5,300人に減っています。次に高齢化については、ニュータウンの中で65歳以上の方が約10,000人います。47,000人の中ですので、高齢化率は2割を超えています。08年は春日井市全体の高齢化率をニュータウンの高齢化率が追い越した象徴的な年です。それに伴って、JRの高蔵寺駅の乗降客ですが、平成7年に1日25,000人いましたが、今21,000人に減っています。また今ある空き家が600戸あります。民間の戸建てのマンションでも500戸空いています。合わせてニュータウンだけで1,100戸空いています。これは大きな問題だと思います。

一番衝撃的な話ですが、藤山台小学校の全校児童が、ピークで1,000人を超えていた学校が今146人です。今年の1年生は全部で22人、愕然としますが男の子が16人で、女の子が6人です。このクラスが1年生から6年生まで続くと言うことです。これも大きな問題です。

淡々と数字を挙げてきましたけれども、このニュータウンの現状というのが、日本の5年、10年後の先取りの数字になっていると思います。人口が減って高齢化率が増え、子供がどんどん減っていく。ですけど、じゃあ年寄りが増えて子供が少なくなり、人口が減ることが本当にいけないことなのかどうか、我々NPO・まちのエキスパートでは、エキスパートをネットワークする、そんなNPO活動をしています。会社で総務や人事を40年してきた、学校の先生を40年やってきた、そんなエキスパートがニュータウンにはたくさん住んでいますので、そんな方たち

を家に引きこもらせずに町に引っ張っていく、町づくりに自分の40年のサラリーマン生活や勤務生活を生かす、そんなことがまちのエキスパネットで出来ないかと思っています。

スキルを持った人がニュータウンの財産であると思いますので、その人たちをまちづくりの中で生かしていくのか、その火付け役が我々のやっているまちのエキスパネットの使命であると思っています。人口が減ることは避けられないことなので、減りながらどういう町を作っていくのか、これが私たちに与えられた課題だと思っています。



〈名畑さんから〉

- ・前半の淡々とした数字を表すのに四苦八苦されていました。
- ・人口の減少からどんな町づくりをするかという一番の問題意識を書いている。
- ・スキルを持った人が町の財産だという最大の主張がよく書かれている。
- ・青山さんの主張がラベルや言葉によって明確に表されている。
- ・数字を書く人、その意味を書く人、コンビネーションの妙技が素晴らしかった。
- ・ダイナミックで、話を生け捕りしていて分かりやすい。
- ・最大の主張を赤で書いて、とても分かりやすくまとめられている。
- ・未来志向の主張がポジティブに書かれていて、上向きの矢印がいい。
- ・余白を取っておいて、最後に結論を書くことは素晴らしい。
- ・紙面の構図づくりを頭に入れて、大事なことを書くスペースを残すのはいい。
- ・データとして高蔵寺をみるという事が括られていて素晴らしい。
- ・紙面が構図化されていて分かりやすい。3段構成が素晴らしい。
- ・三矢さんのグラフィックを紹介する。



9 共有

今日紹介したファシリテーショングラフィックが、みんなの共通な記録を取れることによって人々の話がつながって見えます。また、会議に遅れて来た人も参加しやすいと言った効果があります。記録が残されていれば、それを見て会議の進行を邪魔せずに議論に乗っかれる、そういうこともあります。可能であれば、みんなの記録係が、このカエル65から排出されることによって、春日井のまちづくりが活性化していくといいなと思いをもち、こんな技術を紹介してみました。

ここからは、情報共有ということで、皆さんがやってみての感想など、ヒアリングをしてそのうえで今日のまとめとしたいと思います。

(参加者1)

数字を書き込むことが大変でした。言葉を書くこととは違って、しっかり聞いていないと書けないし、書いていると次に間に合わなかったりと、それが一番大変でした。

(三矢氏)

実際の記録は、例えばその情報があるのかというのはあるかもしれませんが、最終的に議事録を作る時に数字を入れておけばいいので、数字大会ではないので、人口が減っています、小中学生が減っていますという情報さえ伝わればつながっていくので、どこまで要約するのかですね。子供が減っていると書けば、話の論旨はつながりますね。



(参加者2)

今までの目的よりも、もう一つ高い目的を授けると、力を出し合っって仲間になれるということを実感しました。三矢さんに質問ですが、数字が沢山出てきた中で、多分展開がこうなるだろうという予測をしながら表を作っているんじゃないかと思いましたが、どうですか。

(三矢氏)

結論から言えば、そこまでは意識的なやっていないというのが、私の率直なところです。これは基本的には翻訳作業ですので、同時通訳のような気持ちでやっています。意識的にああしてやろうこうしてやろうと言ったことはあまりなくて、あえて心がけていることがあるとすると、時間の配合を気にしています。話のボ

リ्यूムの前提がありますので、5分位の話ならば3分過ぎたところで半分ぐらい埋めていいかな、ということは気にしています。あまり話の展開がこうだからどうの、という事はありません。先を見すぎて外れることもありますから、狙いすぎないようにすることです。また、初めての人と経験者の違いの一つは、行間だと思います。字を詰め込んじゃうとどれだけきれいな字で書いても見づらくなります。行と行のスペースを工夫してやると、多少字が小さくても読みやすくなるのだと思います。



(参加者3)

今日は記録術ということでしたが、いろんな色を使い分けて書けば見やすいことが分かりました。書記になった場合、時間がある時は後でまとめ直したり、色分けしたりできると思うのですが、いろんな人の話が飛び交っている中で記録するとき、ポイントを自分が理解して書いていく技術が必要だと思いますが、そのあたりで上手く記録がとれる術を教えてくださいました。

(三矢氏)

基本的には要約筆記が大前提になります。内でもトレーニングを重ねますし、さらに研修の時には、人の話を10分間話を聞いて3分間でスピーチしろということを見せています。人の話を聞いて、沢山の情報量をくみ取ってそれを要約してごらんということを見せています。そうすると人から聞いた話のトピックスが分かり、そのトピックスの中に幾つものエピソードを見つけることが出来ます。人の話を構造化する、そういうトレーニングはあります。その走りとして、今日は速記することを実践してもらいました。あまり要約・要約といってやろうとするとすごくコツがあるので、まずは速記から入って、要約及び構造化するスキルを高めて行って、できればそこに色のコントロール、文字の大きさのコントロール、装飾のコントロールがあって、という段階を踏んでもらえればいいと思います。入口の中では、たくさんの情報を小さくするトレーニングをすると上手く行くかもしれません。

(参加者4)

数字をまとめようとするので、どんどん先に行っちゃうので、話す人が何を言っているのか全然わからなくなって、まったく書けなかった。最後のまとめのとき

ろだけしか書けなかった。



(三矢氏)

確かに書きとめることは大変だということはあるんですが、一応このファシリテーショングラフィックをやることによって、皆さんにも、逆にしゃべる時にも気をつけてほしい、ということも学んでほしかったというのがあります。しゃべる人が良く分かっていないことをダラダラしゃべると書く方が耐えられなくなってしまいます。しゃべり手側が要点をつかんでしゃべってくれれば、すごく書きやすくなります。皆さんには記録係になってほしいことはもちろんですが、その裏返して、しゃべる時に、人に聞いてもらえるプレゼンテーションをするように気をつけていただきたいと思います。

青山さんの言いたかったのは何だろうと振り返った時に、数字は前座だったんですよ。そういう問題提起があるんだけど、そこから私はこう思うと言うのが青山さんの主張だったのであって、それを書きとめられたので、彼の言いたいことが分かったということで、大体いいと思います。確かに今日は一生懸命書いてね、と言ったんだけど、基本は発言している人がきちんとキャッチできるかどうか、記録係さんの一番重要なことなので、そういう意味では今日はできたと理解していいと思います。

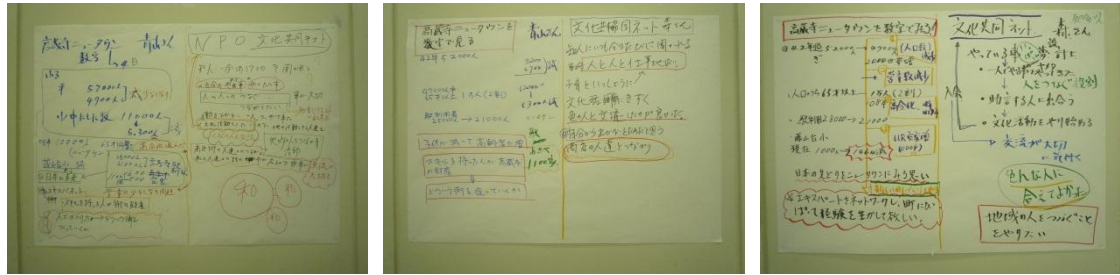
10 まとめ

まとめとして、4点ほどお話をさせていただきます。

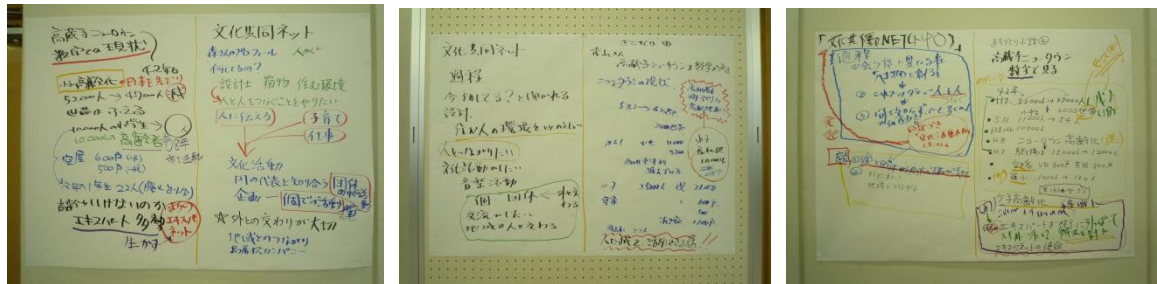
1つは、記録の手法そのものを少し皆さんに学んでいただいたわけですが、私のこんな技術を学んで15年ほどになります。半年・1年やれば大分感じも違いますし、基本的には人様に見せてやるものですから、あまりアウエーというか全然知らない人の前でやることは勇気がいりますので、身内で練習することがお勧めです。

2つ目は、要点をつかむことですが、記録できないことは多分参加者も分かっていないということです。記録係さんが記録できないことは、みんなにも記録されないぐらいのつもりで、そんな位置づけで書いてもらえばいいと思います。皆さんが今後やるうえでは、要点がつかめればOKということで、自分が分かったことをきちんと書くことさえすれば、おおむね話の筋は通っていくだろうし、分からないことを確認することで、発言者の気持ちをきちんと酌んであげることが記録係さん

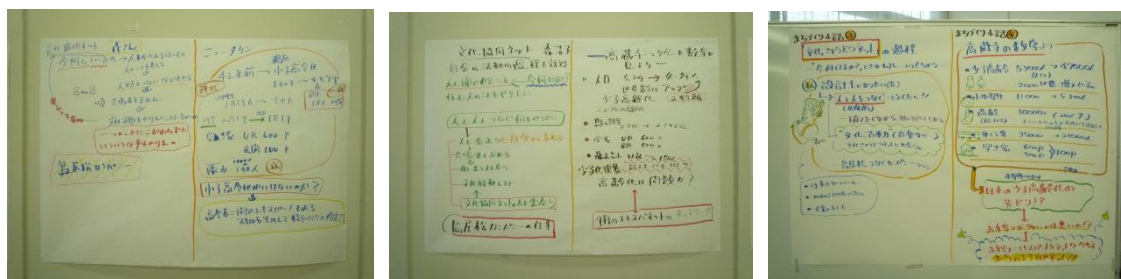
としての心構えだと思います。



3つ目は、分からなかったら止めるということです。自分が分からない時は止めてもいいということです。「さっきの発言が分かりませんでした」といって止めてあげることが、全体にとって8割がたメリットになるという理解でいいと思います。なぜならば、記録係さんが分からないことはみんな分からなかったはずなので、そこでストップをかけて聞いてあげることによって、発言者はもう一度丁寧に発言が出来るし、それによって参加している皆さんが、その人が言いたい点をきちんと了解出来ということがありますので、勇気はありますが、それがファシリテーショングラフィックのコツであり、ポイントですので、止めることを提言していきたいとします。



4つ目は、あとは経験を積むことです。数をこなすことと、一定程度技術が高まってくると、デジカメで話し合っている（記録している）ところを撮って、それを出力して渡すだけでも、ほとんどOKです。正式な記録は大事かも知れませんが、大体のところはそれで分かりますので、それで粗方済んでしまいます。会議は記録が無いと次につながらないし、記録を作ることも大変だということで、2重苦になりますが、みなさんの団体で一人でも二人でもそういう人が出てくれば、会議があってパシャッと撮ってコピーしてお終いとなれば、だいぶ会議の記録ストレスが減ると言うことになります。確かに1回や2回では習得できないかもしれませんが、3回や4回やればだいぶ出来るようになると思いますので、今日を皮切りにみんなの記録づくり術を習得いただけたらいいなということを思って全体のまとめとさせていただきます。今日はどうも有り難うございました。



(司会)

有難うございました。お二人の素晴らしさに拍手をお願いします。

(三矢さん、名畑さんに大きな拍手が送られた。)

(司会)

ここで、5分ほどの休憩といたします。その後交流会を行います。お茶やお菓子も用意していますので、ご自由にどうぞ。

(休憩 5分)

11 交流会

(司会)

これから交流会を始めます。その中で、お二人の講師の先生に対する質問や、グループワークに参加しての感想やご意見など、気軽にお話してください。



(交流会 25分)

(司会)

最後に次回のご案内を、春日井市民会議「カエル65」今西副会長からさせていただきます。

12 次回案内

今西副会長より、次回8月28日(土)14時から開催する、第3回春日井市民会議「カエル65大学」鏝(かすがい)人養成講座『ワクワク未来の計画術!?!』のご案内があった。

(司会)

今日は長時間にわたり、本当にありがとうございました。これで第2回「カエル65大学」鎡（かすがい）人養成講座『議論が踊りだす記録術！？』を終了させていただきます。次回の講座で、また皆さんにお会いできることを楽しみにしています。それでは交通安全に十分注意をして、お帰りください。